



江田島市を よりよいまちへ



年頭に当たり、田中 達美市長と上田 正市議会議長に、今年の抱負などについて伺いました。
(進行・取材：秘書広報室)



昨年を振り返って

市長 昨年を一文字で表すと、混乱したという意味で「迷」という字が思い浮かびます。国でも地方でもいろいろなことが起こり、思い迷うという部分があったと思います。議長さんはどうですか？
議長 今年はたまたま毎年募集している「今年の一文字」に応募したのですが、「不」にしました。不安、不信、不明：先行きが見えない状態として、この文字を選びました。
市長 いずれにしても、激動の1年であったことは間違いありません。国では政権交代があり、広島県においても湯崎知事が昨年11月に就任しま

江田島の強み・課題

市長 江田島の強みはなんと言っても自然。特に島ということで海に囲まれているので、海が一番PRできると思います。しかし正直な所、うまく活かせていないのが現状ではないでしょうか。自然を

活かした新しい産業を起す

活かした新しい産業を起すにしても、財源が限られている中でお金をどんどん使っていくわけにはいきません。民間や地域の活力を活かして、バランスよく進めることが大事です。
議長 市長の言われるように、海はアピールすべきところだと思います。今は日帰りのイベントがありますが、将来的に島へ一泊して楽しむくらいのものができれば。ある島では年に一度参加者が泊り込んでいるのトライアスロン大会を開催していますが、そんな感じのイベントがあってもいいのではないのでしょうか。要はどうやったら人が来てくれるか。「そんなのは無理だ・意

をどう食い止めるか。簡単にはいかない状況にあります。島内に働く場を確保することが、人口減に歯止めをかける方法の一つではないかと思えます。

協働のまちづくり

市長 協働のまちづくりを進める上で、行政と市民との関係で言えば「対等」であることが前提だと考えています。真に地域に必要なものは何かを見極めることができ、はじめてお互いが対等な形で物事を進めることができるのではないのでしょうか。
議長 協働のまちづくりを成すためには、当然ながら市民の皆さんに参加してもらうこ

とが必要。そのために、まずは情報を積極的に公開することに力をいれるべきだと思います。
市長 情報を公開するときは、しっかりと相手に伝わるようにしなければ。なんのことも分からない文章や図を示したのでは、結局市民の皆さんには伝わりません。まだ、情報をうまく伝えきれていない部分があると思います。もう少し、私たちが知恵を出さなければいけません。

今年の抱負

市長 今年はいろいろな合に顔を出し、じかに目を見て耳で聞いて、感じるものを得たい。先日、商工会青年部の皆さんと話をする機会がありました。皆さんが、「そんな考えがあったのか」と私では思いつかないアイデアを聞きました。先行きが不透明な今だからこそ、「夢」を語る姿勢が必要です。その中から、必ず本物

会や老人クラブ、女性会、そのほかにもたくさんあります。行政と地域とが協力して活動できる下地はありますから、情報を共有して市民の皆さんと一緒にまちづくりを進めていきたいですね。

味がない」と思わず、いろ

味がない」と思わず、いろろなアイデアを出していく中で、実のあるものができればいいですね。
市長 江田島市へイターンした人に聞いたのですが、「この島では子どもたちだけで遊ぶことができる。以前住んでいた所ではなかなかそうはいかない」と言っていました。ほかの所では貴重なことも、私たちがしたら当たり前だと思っていて見逃していることがあるのではないのでしょうか。

議長 課題としては、少子高齢化を一番心配しています。江田島市に住めるような環境を整えなければなりません。
市長 少子高齢化・人口減少

になるものが出てくると思います。若い人だけではなく、いろんな人の意見を聞く機会を持ち、実行に移す。そういう1年にしたいですね。
議長 私としては今年だけのということではありませんが、議会改革の一つとして議会基本条例について勉強していきたい。この条例は、主に議会の基本理念や役割、権限、基本事項などを規定し、議会のあり方について議会自身が定めるものです。任期中に勉強を重ね、議員全員で取り組めるようにしていきたいですね。
市長 江田島市がよりよいまちになるよう、これからもお互いに頑張っていきたいと思います。
議長 はい、今年も頑張りますよ。



先行きが不透明な今だからこそ、「夢」を語る姿勢が必要。

市長
田中 達美

「やってみよう」と皆さんが思えるよう、情報をしっかり伝えなければ。

市議会議長
上田 正